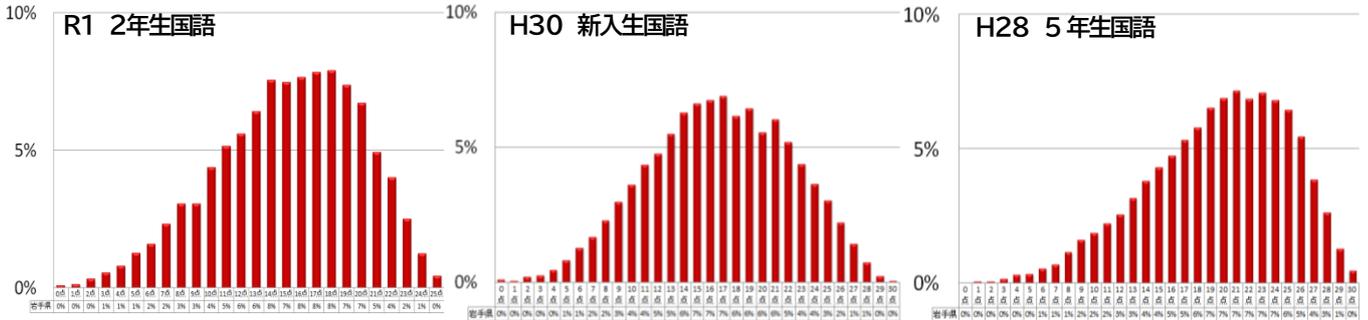


授業改善の手引 中学校第2学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況（同一経年比較）



○ 問題数は昨年度から2問減り25問、正答数の最頻値は18問、平均正答数は15問です。同一集団で比較すると、正答数の最頻値より高い正答の割合が減っており、中間層の割合が増えています。正答数14～19問の層の生徒が全体の半数近くを占めており、この層に属する生徒への指導の工夫が重要です。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 ()はH30新入生学調、〈 〉はH28県学調
話すこと・聞くこと (5問)	62% (72%) * 4問 〈62%〉 * 6問
書くこと (2問)	51% (45%) * 3問 〈54%〉 * 2問
読むこと (8問)	58% (44%) * 10問 〈64%〉 * 10問
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (10問)	64% (62%) * 13問 〈70%〉 * 12問
活用 (7問)	47% (49%) * 3問 〈49%〉 * 5問

(3) 結果概要

- 「話すこと・聞くこと」領域の正答率は全体としては62%ですが、「話の中心を捉えて聞く」における活用を意識した問題の正答率は41%と指導の工夫が必要な状況です。
- 「読むこと」領域の正答率は58%と改善の傾向が見られます。「文章の構成や展開を捉える」の問題で改善が見られました。
- 「書くこと」領域の正答率は51%と課題が継続しています。「資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」の正答率は43%であり、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、新たに「文脈に沿って、漢字を適切に使う」問題を出題しました。この中で、正答率38%、30%の問題があり、漢字を正しく書くだけでなく、文脈に沿って適切に使うことに関する指導の工夫が必要な状況です。
- 活用を意識した問題においては、「読むこと」領域の「文章の展開を確かめながら要旨を捉える」の正答率は32%であり、課題が継続しています。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲はH30県学調との比較マウスを表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
●4(話・聞)	81	▲7	話し手の工夫を理解して聞く。
○12(伝国)	74	16	語句に関する類別の理解を深める。
●17(読)	44	▲34	表現の仕方をとらえて読む。
●22(読)	32	▲4	文章の展開を確かめながら要旨をとらえる。
○23(読)	66	23	文章の構成や展開をとらえる。
●25(書)	43	▲13	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。

- 経年で課題が継続していましたが、通番号23「文章の構成や展開を捉える」は改善が見られる状況です。
- 通番号22「文章の展開を確かめながら要旨を捉える」は、正答率が30%前後と低い状況が続いており、指導の工夫が必要です。

(5) 小問別正答率

問題番号			調査問題のねらい	学習指導要領との関連	Gアップシートとの関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)							
大問	中問	小問							1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	A 1	話の中心をとらえて聞く。	第2学年「話・聞」(1)エ	第2学年「話・聞」-2	話・聞	活用	46	0	0	0	0	47	46	6	
		イ 2	話の中心をとらえて聞く。	第2学年「話・聞」(1)エ	第2学年「話・聞」-2	話・聞	活用	45	0	0	0	0	44	45	11	
	(2)	3	話の中心をとらえて聞く。	第2学年「話・聞」(1)エ	第2学年「話・聞」-2	話・聞		96	2	1	1	96	0	0	0	
		4	話し手の工夫を理解して聞く。	第2学年「話・聞」(1)エ	第2学年「話・聞」-2	話・聞	経年	81	7	81	7	5	0	0	0	
		5	話の中心をとらえて聞く。	第2学年「話・聞」(1)エ	第2学年「話・聞」-2	話・聞		41	0	0	0	0	39	41	20	
2	(1)	① 6	漢字「施す」を正しく読む。	第2学年「伝国」(1)ウ(ア)	言語事項-67~100	伝国		69	0	0	0	0	21	69	10	
		① 7	漢字「厳しい」を正しく書く。	第2学年「伝国」(1)ウ(イ)	言語事項-64、67~100	伝国		72	0	0	0	0	17	72	11	
	(2)	② 8	漢字「郵便局」を正しく書く。	第2学年「伝国」(1)ウ(イ)	言語事項-67~100	伝国		66	0	0	0	0	24	66	11	
		A	9	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	言語事項-42、43	伝国		38	0	0	0	0	39	38	22
			10	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	言語事項-42、43	伝国		30	0	0	0	0	25	30	45
B 11	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	言語事項-42、43	伝国		86	86	5	6	1	1	0	1			
3	(1)	12	語句に関する類別の理解を深める。	第2学年「伝国」(1)イ(ウ)	言語事項-1~9	伝国	経年	74	5	15	74	6	0	0	1	
	(2)	13	正しい敬語になおす。	第5・6学年「伝国」(1)イ(ク)	言語事項-39	伝国		54	0	0	0	0	37	54	9	
		14	熟語の構成について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	言語事項-48、49	伝国		84	2	10	3	84	0	0	1	
		15	故事成語について理解する。	第1学年「伝国」(1)イ(ウ)	言語事項-50	伝国		69	14	69	12	4	0	0	1	
4	(1)	16	文章の描写に即して人物の心情をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-1~2	読		77	10	8	77	4	0	0	1	
	(2)	17	表現の仕方をとらえて読む。	第2学年「読」(1)ウ	第2学年「読」-1~2	読	経年	44	44	15	23	16	0	0	1	
		A 18	文章の描写に即して人物の心情をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-1~2	読	活用	20	0	0	0	0	57	20	23	
		B 19	文章の描写に即して人物の心情をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-1~2	読	活用	85	3	7	2	85	0	0	2	
5	(1)	20	文章の展開に即して内容をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-5~7	読		63	8	63	13	15	0	0	1	
	(2)	21	文章の展開に即して内容をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-5~7	読		75	75	6	10	7	0	0	2	
		22	文章の展開を確かめながら要旨をとらえる。	第2学年「読」(1)イ	第2学年「読」-5~7	読	経年活用	32	0	0	0	0	42	32	26	
		23	文章の構成や展開をとらえる。	第2学年「読」(1)ウ	第2学年「読」-5~7	読	経年	66	5	13	66	11	0	0	4	
6		24	伝えたい事柄を明確にして適切な構成を工夫する。	第2学年「書」(1)イ	第2学年「書」-3~4	書	活用	59	0	0	0	0	22	59	18	
		25	資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。	第2学年「書」(1)ア、ウ	第2学年「書」-3~4	書	経年活用	43	0	0	0	0	37	43	20	

全体正答率

61

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 話の要点を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる言語活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

1 (4) 話の中心を捉えて聞くことができる。

第2学年「話・聞」(1)エ 正答率 41%

イ 誤答分析

無解答率は20%でした。誤答を分析すると、川野さんが語った地域交流の輪が広がっている理由を正しく聞き取ることができず、直前の記事の内容を手掛かりに「交流が深まっているから」「よい交流の機会となっているから」と記述している、前後の文脈に沿っていない解答が多く見られました。また、「一度参加した人が広く知らせている」と、話の一部のみを結び付けて考え、話全体のまとまりを捉えていない傾向が見られました。

この問題では、聞き手の質問に答える話し手の応答について、話の中心的な部分と付加的な部分を聞き分ける力が求められています。それぞれの情報同士の結び付きに注意しながら聞き、話の要点を正確に捉えた上で、必要に応じて大事な事柄のメモを取ることが不十分だったと考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 小5-1(2)】

何のためにどのような状況で話を聞くのか聞き手に意識を持たせた上で、話の中心的な部分と付加的な部分とを聞き分け、情報同士の結び付きに注意しながら話の要点を捉え、話全体がどのようにまとめられているのかを考える学習をする必要があります。そのためには、聞き取った話の内容について確かめさせたり、振り返らせたりする指導が必要です。

必要な内容を記録する際は、重要であると判断した情報をキーワードとして書き留めたり、気付いたことを書き加えたりするなど、効果的な記録の取り方ができるようにすることが重要です。【展開例1 参照】

(2) 文脈に沿って、漢字を適切に使うことが求められる学習活動を工夫しましょう。

ア 問題の概要

2 (3) 文脈に沿って、漢字を適切に使うことができる。

第2学年「言語事項」イ(イ) 正答率 ア 38%

正答率 イ 30%

イ 誤答分析

アの無解答率は22%、イの無解答率は45%でした。誤答を分析すると、アについては、「勤」を指摘することができても、「努」ではなく「務」と書き直す誤答が多く見られました。イについては、間違いである「感」ではなく、「議」を指摘し「義」や「儀」と書き直す誤答が見られました。また、間違いを同音異義ではなく、点画の書き間違いとして指摘する傾向が見られました。

この問題では、同音異義語について理解し、文章の中で正しく使われているか判断する力が求められています。前後の文脈から意味内容を捉え、正しく伝達できる同音の漢字を書くことに課題があると考えられます。

ウ 指導上の留意点

話や文章の中で、類義語や対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などを使うことを通して、語句の量を増やすとともに、語句についての理解を深める必要があります。

漢字の学習をする際には、字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが必要です。日常的に相手や目的に応じて適切に漢字が用いられているかどうかを確認することができるように指導することも考えられます。そのためには、他教科等の学習や日常生活の中でも、積極的に辞書を用いて語句の適切な使い方を調べられるよう、言語環境を整えておくことも大切です。

(3) 登場人物の人物像から相互関係を捉え、内容の理解に役立てる学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

4 (3) A 文章の描写に即して人物の心情を捉える。

第2学年「読」(1) イ 正答率 20%

イ 誤答分析

無解答率は23%でした。誤答を分析すると、「大貴」が走ることに集中している状態を「実感」という言葉を使って表すことにとどまり、本文の描写等を根拠にして、その状態を気持ちいいと感じていることを捉えるまでには至らなかった解答が多く見られました。

この問題では、まず、「モノクロ」という表現には「大貴」の心理状態を表す効果があることを正確に捉え、次に、それがどのような状態なのかを本文の描写を基にして表現することが求められます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 小5-4 (4)】

第1学年では、言葉を手掛かりにしながらか脈をたどり、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことによって深い理解や感動が得られることを学習しています。これを受け、「登場人物の言動の意味」について登場人物の人物像や相互関係を踏まえた上で、その言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたもの
の見方などにどのように関わっているかを考えることが重要です。

このことを指導する際には、物語の構成や展開、表現の工夫とその効果を取り上げながら、人物像や筆者の意図について感想を交流する言語活動が考えられます。【展開例2 参照】

(4) 文章全体と部分との関係に着目して要旨を捉え、文章の構成や展開について自分の考えをもつ学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【経年比較・活用問題】

5 (3) 文章の展開を確かめながら要旨を捉える。

第2学年「読」(1) イ 正答率 32%

イ 誤答分析

無解答率は26%でした。誤答を分析すると、この文章で筆者が「猿真似」という言葉にどのような意味をもたせて使用しているのかを捉えられていない解答が多く見られました。また、国語辞典に書かれた「猿真似」と比較し、「他人」という言葉を使ってどのような内容を捉え、まとめればよいのかにたどり着かなかった解答も見られました。

この問題では、筆者が、他人の行動の意図を理解し、手順まで忠実に真似ることができるのは人間だけであることを「猿真似」という言葉を使って説明していること、また、そのことについて、チンパンジーの木の实割りの手順の模倣と比較しながら述べているという論の展開の仕方を正確に捉えることが求められます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 小5-5 (4)】

第1学年では、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えることを学習しています。これを受け、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、文章中に示されている具体例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考えることが重要です。

このことを指導する際には、論の展開について自分の考えをまとめる言語活動が考えられます。その際には、自分の考えの根拠となる段落や部分などを挙げるのが大切です。問題提起の段落や事例を挙げる段落、分析している段落や結論を述べている段落など、それぞれの段落の果たす役割を踏まえ、必要に応じて情報を取り出し、内容をまとめることが有効です。

【展開例1】

【話の要点を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる言語活動を位置付けた展開例】

学習材「地域の魅力をインタビューし、新聞にまとめて発信しよう」

(令和元年度岩手県中学校学習定着度状況調査 中学校第2学年国語¹)

《単元指導計画》

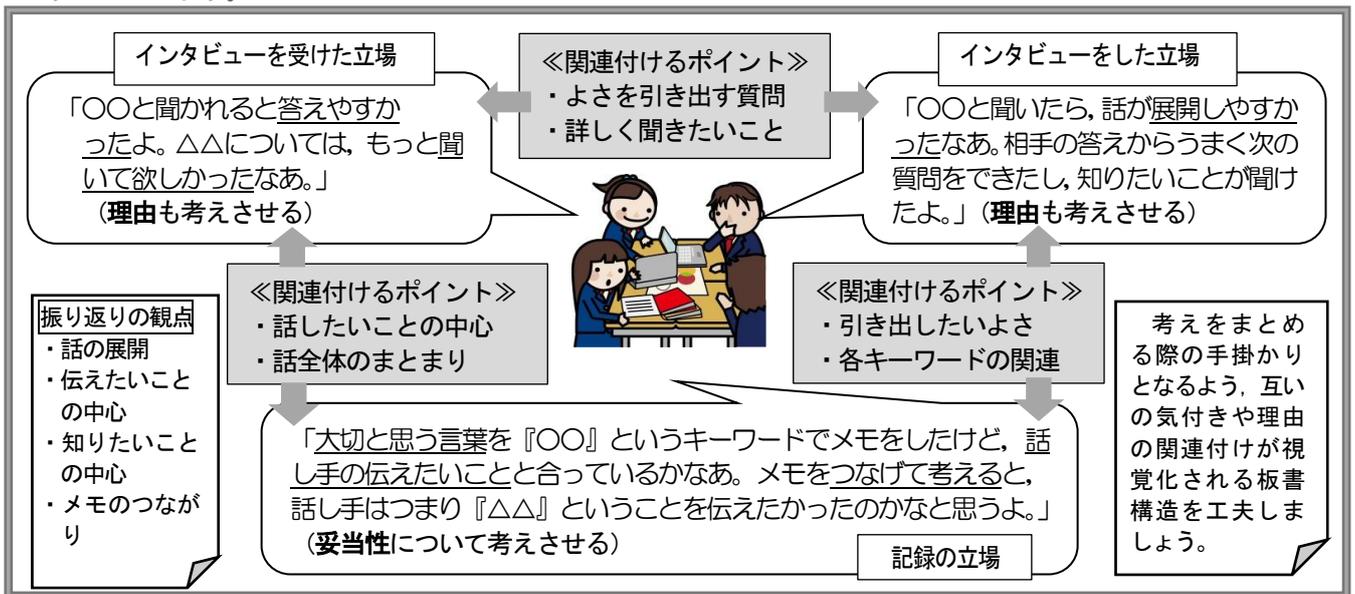
次	時	主な学習活動
1	①	○単元の見通しをもつ。 ・地域の魅力を話し合い、 <u>発信する目的と方法を確認する。</u> ・学習計画を立てる。
2	②	○取材の準備をする。 ・インタビューの方法を確認する。 ・インタビューする内容を整理する。
	③	○インタビューの練習をする。 ・相手の話したいこと(目的)に合わせて、質問を考えインタビューをする。 ・インタビューを振り返る。 <u>ICT等の活用の工夫も効果的です。</u>
3	④	○取材をする。 ・地域の方にインタビューをする。 ・ <u>キーワードを中心にメモを取る。</u>
	⑤	○取材メモを整理する。 ・メモのキーワードを手がかりに、 <u>情報同士を結び付け</u> 、話の要点を捉える。 ・取ったメモに感想や考えなどを書き加え、伝えたい「魅力」をまとめる。
	⑥	○新聞にまとめる。 ※発信は、実情に応じた場と相手を設定

《第3時：「インタビューの練習をする」》

	学習活動 ☆ポイント
導入	1 インタビュー経験を交流し、 <u>よい聞き手になるための課題意識</u> を高める。 ○「よい聞き手」とはどのようなものか。 ○インタビューに「必要な技」は何か。
展開	2 課題を解決する。 ～インタビューをし合いながら、課題について考えよう～ ① 話したいことを書き出す。 (部活動、委員会、学校行事 等) ② 順番と役割を決める。 (役割：インタビュアー、記録) ③ 質問を考える。 ④ インタビューをする。 (記録役は、メモを取る) ⑤ <u>インタビューを振り返る。</u> 3 課題に対する考えを交流し、まとめる。 ☆話の要点を捉えながら聞く ☆話の内容を深める(広げる)質問をする ☆キーワードを中心にメモを取る
終末	4 本時の学びを振り返る。 (学びの成果・次時に生かしたいこと)

《⑤インタビューを振り返る》

自分たちの話の展開と記録を振り返り、実際に行った質問や応答、その記録を客観的に検証できるようにしましょう。それぞれの立場を経験して気付いたことや考えたことを関連付けながら、課題に対する自分の考えをもてるようにしましょう。



【生徒の「振り返り」の記述の例】

今日学んだ「技」(話の要点を捉えながら聞く・目的に合わせて質問をつなげる・必要なキーワードを中心にメモを取る)を生かして、次時は「地域の魅力」について、地域の方々にインタビューをしたいです。

【展開例2】

【物語文を読み、登場人物の描かれ方や情景等の効果的な描写を取り上げながら、人物像について感想を交流する言語活動を位置付けた展開例】

学習材 まはら 三桃「白をつなぐ」より（令和元年度岩手県中学校学習定着度状況調査 中学校第2学年国語⁴）

学習の流れ

・『大貴』の描かれ方や情景の効果的な描写を取り上げながら、その人物像について感想を交流する」ための学習の見直しをもつ。
 ・物語全体から受ける印象や「大貴」の描かれ方を観点として通読し、感想を書く。
 <第1時>

・登場人物（「大貴」、「大阪の選手」、「熊沢」）の設定を読み、相互関係も踏まえながら、「大貴」がどのような人物像で描かれているか自分の考えをまとめる。
 <第2時>

・「大貴」の人物像を印象付けるための表現上の工夫について、意見を交流しながら表現の仕方とその効果について吟味する。
 ・交流を通して吟味した内容を基に、改めて「大貴」の人物像についてまとめる。
 <第3時>

・「大貴」の描かれ方や情景等の効果的な描写を取り上げながら、その人物像について感想を交流する。
 （感想交流の様子は撮影して、学校図書館にて開放時間に放映する。）
 <第4時>

【言語活動】『白をつなぐ』を読み、「大貴」の描かれ方や情景等の効果的な描写を取り上げながら、その人物像について感想を交流する。

第3時

☆「大貴」の人物像を印象付けるための表現上の工夫について、意見を交流しながら表現の仕方とその効果について吟味する。

前の時間にまとめた「大貴」の人物像を基にして、その表現の仕方について、みんなが注目した描写を具体的に示しながら、どのような工夫と効果があるのかを交流しましょう。



①私が注目したのは「モノクロだった風景」という表現です。大貴について、私は「チャライという周りからの評価に反発してがんばっている人物」と捉えました。そんな大貴が走ることだけに集中している様子を表現するのに「モノクロ」という言葉を使っているのが効果的だと思います。

②その様子を表すのに、なぜ「モノクロ」という言葉が効果的ですか？
 <理由付け等を求め、より具体的に話すことを促す>

④走るという苦しいことでも「モノクロ」の状態になってがんばっているってことですね。確かにチャラクはないことを印象付ける表現だと思います。

③色がない様子を表す言葉で、走る以外に何も感じていない「真っ白」な大貴の気持ちをうまく例えていると考えたからです。私もテスト勉強などの時に、こうなるのでよくわかります。

⑤ちょっと待ってください。
 苦しいことでもがんばるってだけでなく、物語全体のイメージはもっと前向きな感じだと思うんですが…。

⑦「そのことが、この上なく気持ちいいだけだ。」とあります。「モノクロ」、「真っ白」というのは走ることだけに集中して、それをこの上なく気持ちいいと感じていることを表現しています。

⑥よいところに注目していますね。
 どの描写からそのように考えられますか？
 <根拠を描写から求めることを促す>

〔生徒の「振り返り」の記述の例〕

私は大貴の人物像を「チャライという周りからの評価に反発してがんばっている人物」と捉えました。交流でみんなの意見を聞いて、さらに、この出来事を通して前向きな気持ちになることができたということに気付き、理解が深まりました。次の時間は、捉えた人物像の根拠として描写をしっかり取り上げることが意識して感想を交流したいです。